

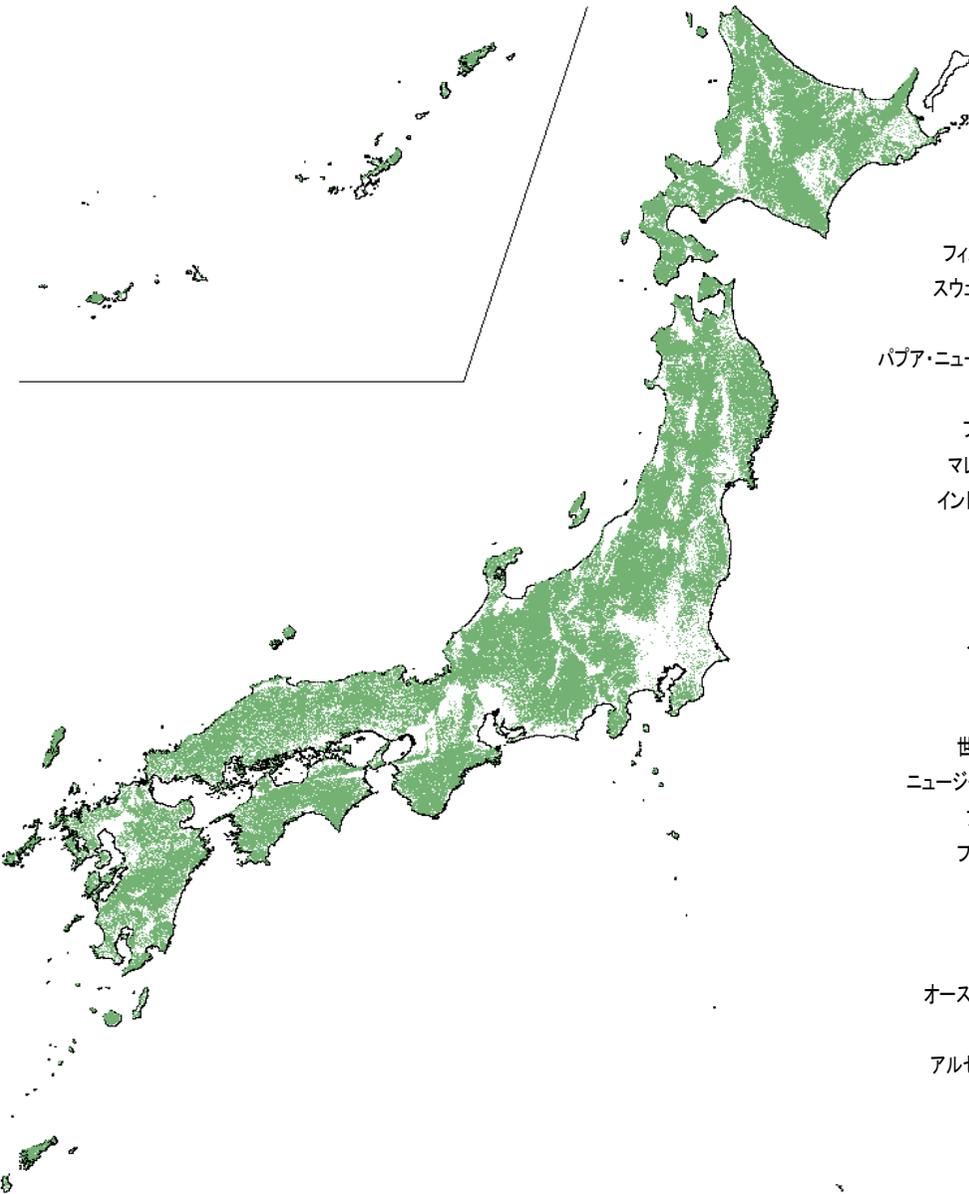
# 木材利用の促進に向けて

林野庁木材利用課

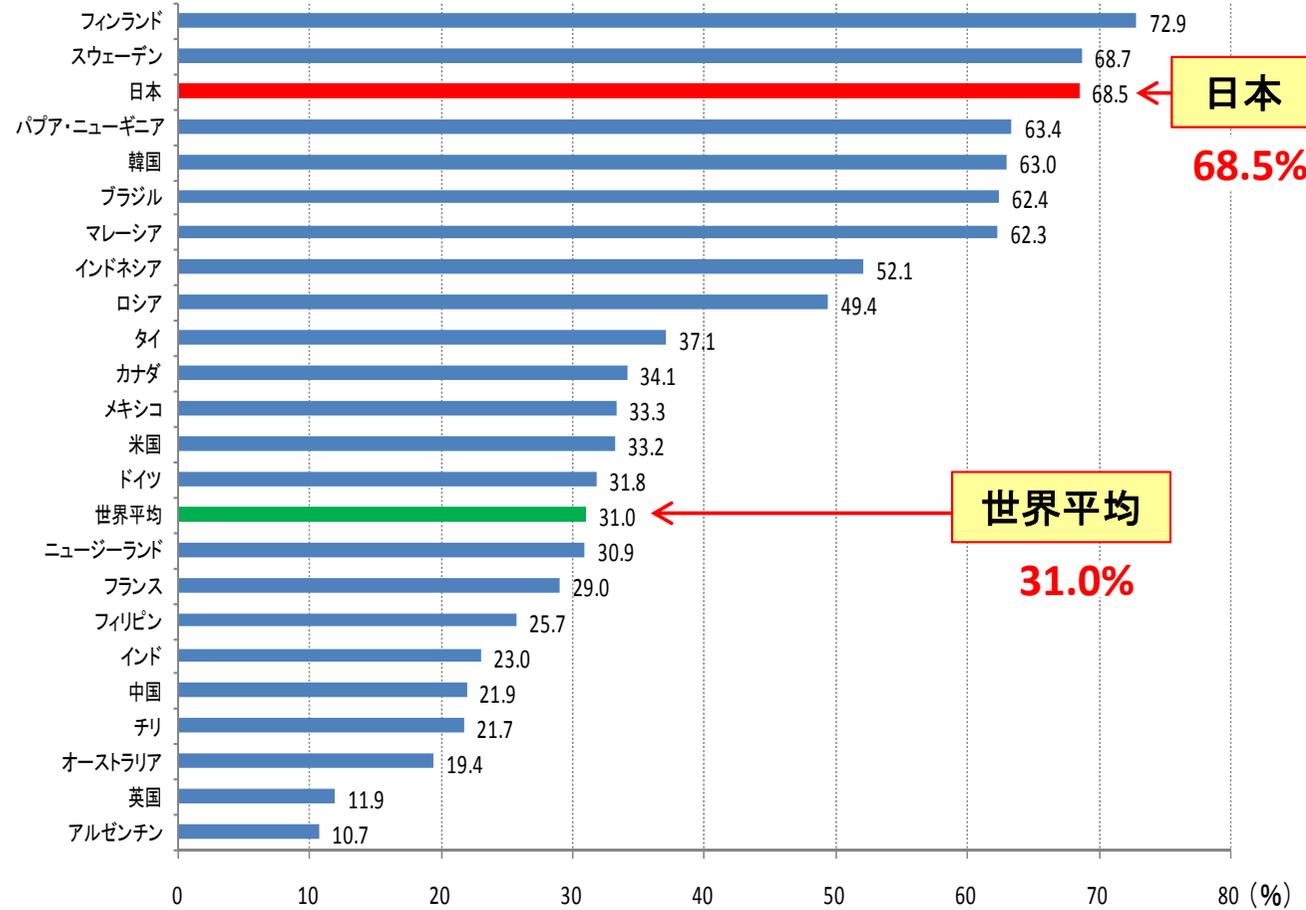


# 我が国は世界有数の森林国

- 日本の森林率は68%と世界有数の森林国(世界平均31%)



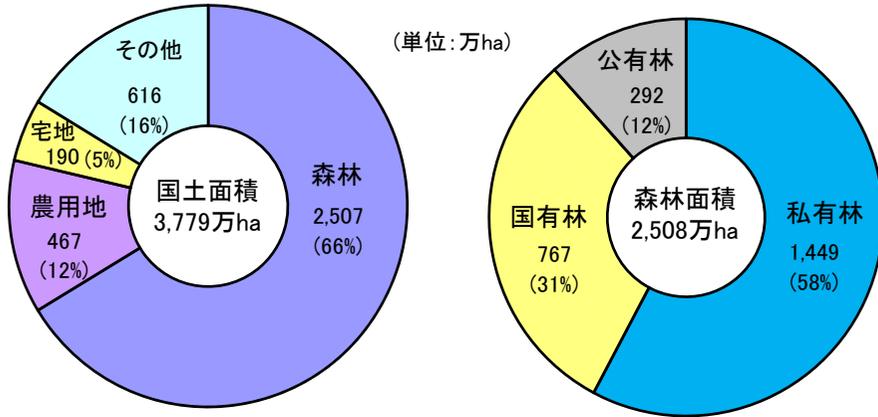
世界各国の森林率(国土面積に占める森林面積の割合)



資料: FAO「世界森林資源評価2010」

# 森林の現状

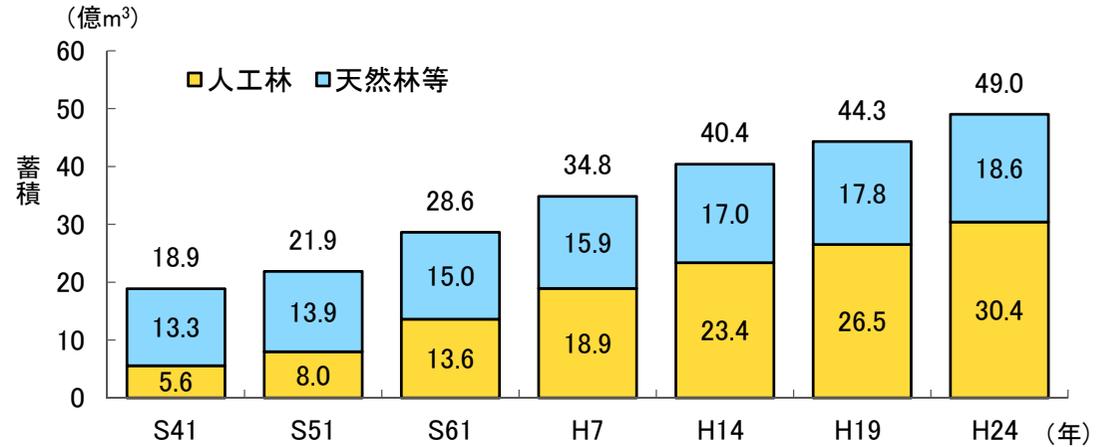
## ■ 国土面積と森林面積の内訳



資料: 国土交通省「平成23年度土地に関する動向」  
(国土面積は平成22年末現在)

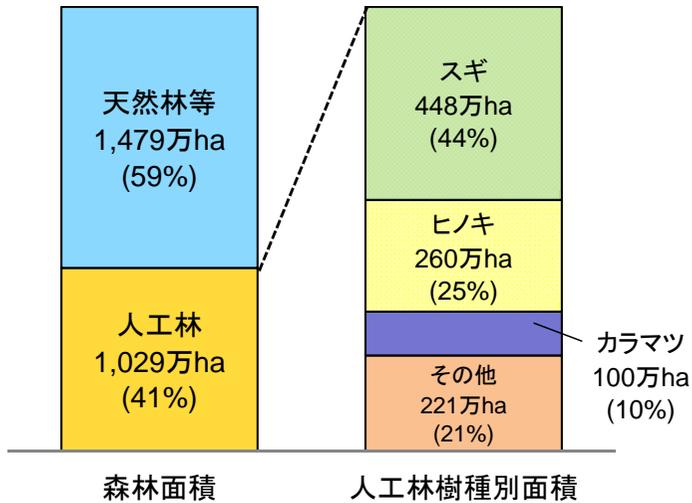
資料: 林野庁業務資料(平成24年3月31日現在)

## ■ 我が国の森林資源の推移



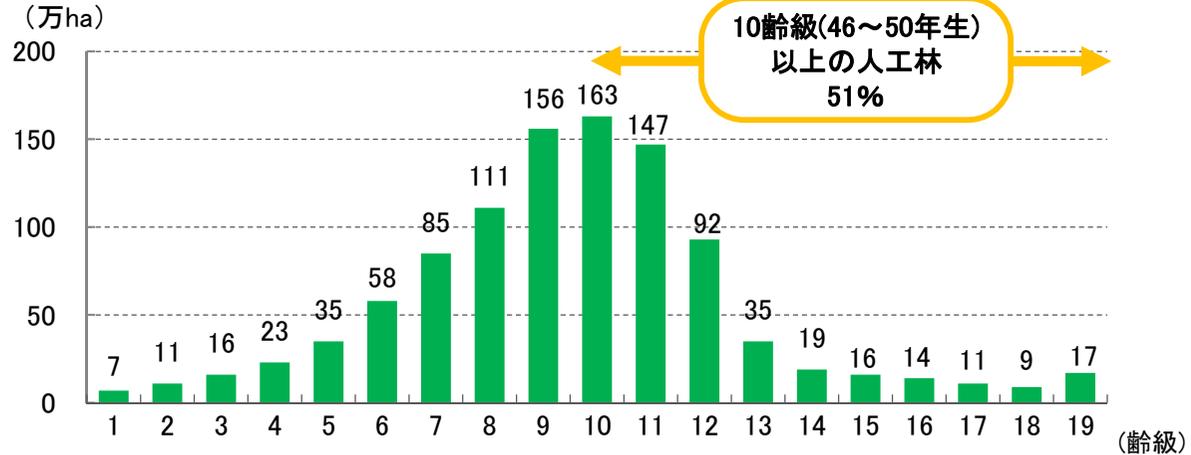
資料: 林野庁業務資料(各年の3月31日現在の数値)  
注: 総数と内訳の計の不一致は、単位未満の四捨五入による。

## ■ 人工林樹種別面積



資料: 林野庁業務資料(平成24年3月31日現在)

## ■ 人工林の齢級別面積



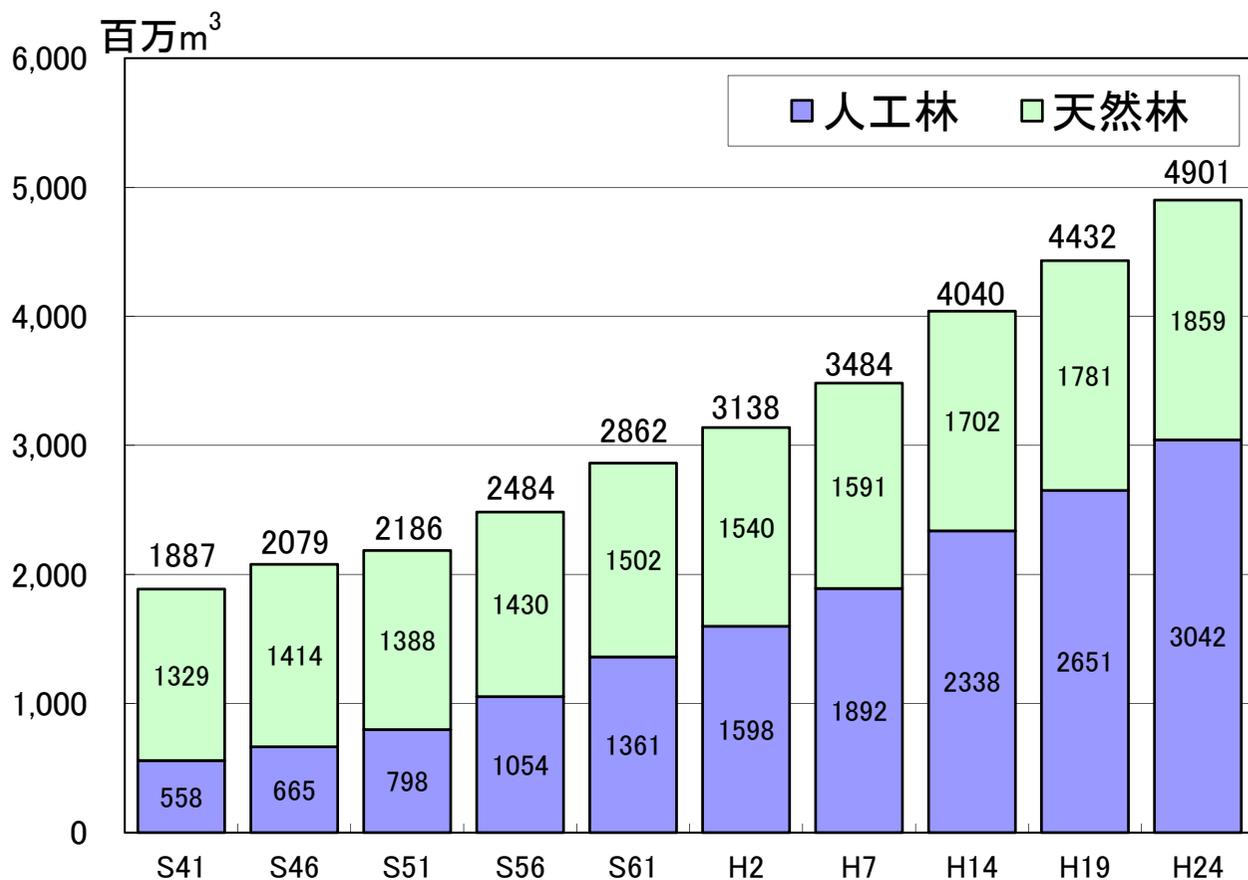
資料: 林野庁業務資料(平成24年3月31日現在)

注1: 齢級(人工林)は、林齢を5年の幅でくくった単位。苗木を植栽した年を1年生として、1~5年生を「1齢級」と数える。  
注2: 森林法第5条及び第7条2に基づく森林計画の対象となる森林の面積。

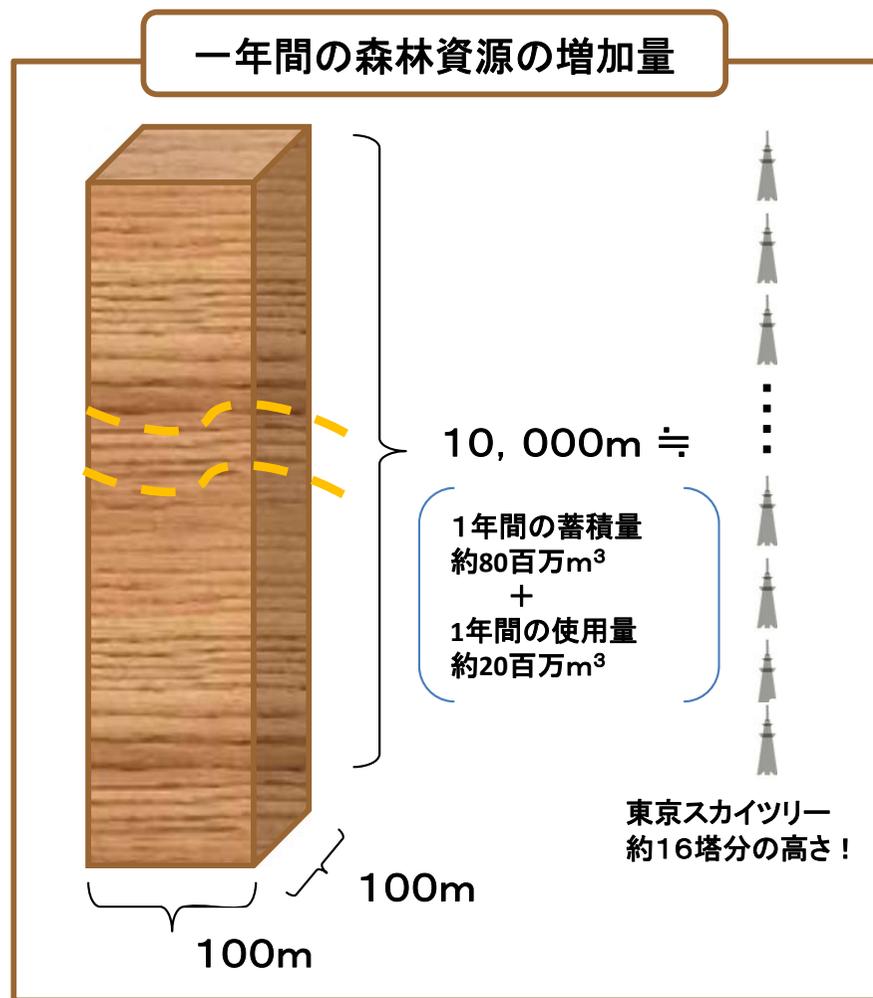
# 森林の現状と課題① 我が国の森林資源（蓄積）の推移

- 森林の蓄積は、人工林を中心に毎年増加し、総蓄積は約49億 $m^3$ 。毎年、日本の木材需要量を上回る1億 $m^3$ の蓄積が増加。

## 森林資源（蓄積）の推移



資料: 林野庁業務資料



# 森林の現状と課題② 手入れの遅れが心配される森林



# 森林の現状と課題③ 人工林の現状は

- 日本の全森林資源量は44億 $m^3$ (平成19年)。  
人工林を中心に高齢級のもが増え、毎年8千万 $m^3$ が増加。
- 日本全国の年間の用材需要量は7千万 $m^3$ (平成23年)。  
木材自給率は26.6%(平成23年)で国産材の割合が少ない。

このままでは…

- 資源が劣化し、 $CO_2$ の吸収能力や多面的機能が低下。
- 農山村地域の活力が低下。

解決するためには、「国産材を使う」

「山で働く人を育てる」

「森林づくりをみんなで支える」

こと等が必要。



未利用間伐材等は  
毎年2,000万 $m^3$

間伐が必要

少子高齢化の状態

国産材の供給が少ない

国産材の  
用途が少ない

大部分を外材で  
まかなう

- 価格も低下
- 再造林意欲の低下

間伐が行われないと…

- 土壌が失われ、土砂崩れの原因になる
- $CO_2$ 吸収量が低下する
- 病虫害が発生しやすい

# 森林の現状と課題④ 元気な森林を維持するためには



# 木材利用の拡大

## 住宅分野等での木材利用

- ・木造住宅の建築や内装の木質化などに木材利用ポイントを付与することなどにより、住宅分野等での需要を喚起。(※対象の工事着手期間、製品の購入期間はH26.9.30で終了しているが、発行申請の受付期間はH27.5.31まで延長)

## 公共建築物等の木造化

- ・平成22年10月に施行された「公共建築物等木材利用促進法」に基づき、国・地方公共団体が木材利用方針等を策定。
- ・全国1,742市町村のうち、26年9月末現在、約8割の市町村で方針が策定されている。

## 木質バイオマスの利用

- ・再生可能エネルギーの固定価格買取制度を活用しつつ、未利用間伐材等の利用を推進。

## 木材製品の輸出の拡大

- ・中国や韓国等への輸出を促進。中国の建築基準の改定作業(日本産スギ、ヒノキ等の位置づけ)への参画等を支援。

## 新たな製品・技術の開発

- ・中高層建築物の木造化に必要な耐火・耐震性能の高い部材(CLT等)などの開発を推進。

# 公共建築物等木材利用促進法のしくみ

国

## 【責務】

- ・ 木材利用の促進に関する施策を総合的に策定・実施
- ・ 自ら率先して公共建築物への木材の利用
- ・ 必要な法制上の措置その他の措置
- ・ 木材利用に関する国民の理解の醸成

地方公共団体等

## 【責務】

- ・ 国の施策に準じた施策の策定・実施
- ・ 公共建築物等への木材の利用

都道府県方針

市町村方針

## 【基本方針】（平成22年10月）

- ・ 低層の公共建築物は原則全て木造化
- ・ 内装の木質化
- ・ 備品・消耗品への木材使用
- ・ 木質バイオマスの利用促進

## 【事業者・国民の努力】

- ・ 利用促進に自ら努力
- ・ 施策への協力

## 具体的・効果的に木材利用の拡大を促進

- ・ 公共建築物における木材利用拡大（直接的効果）
- ・ 一般建築物における木材利用の促進（波及効果）

## 併せて、公共建築物以外における木材利用も促進

- ・ 住宅や工作物への木材利用
- ・ 木質バイオマスの製品・エネルギー利用

林業・木材産業の活性化  
（地域経済の活性化）

森林の適正な整備・  
保全の推進

木材自給率の向上

# 木材の利用を促進すべき公共建築物

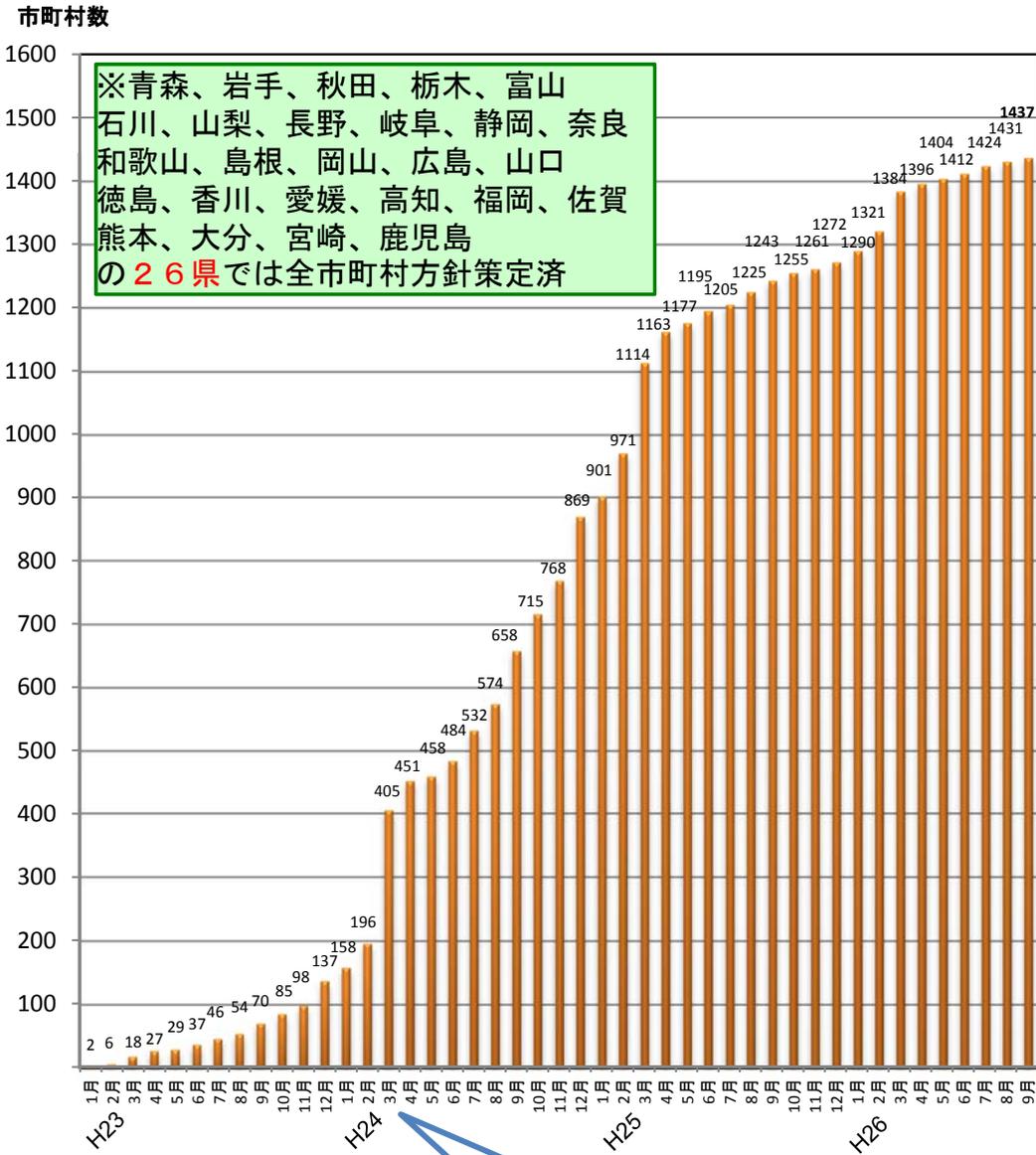
国又は地方公共団体が整備する全ての建築物

民間事業者等が整備する施設

- 学校(附属施設)
- 老人ホーム、保育所、福祉ホームなどの社会福祉施設
- 病院又は診療所
- 体育館、水泳場などの運動施設
- 図書館、青年の家などの社会教育施設
- 鉄道の駅など公共交通機関の旅客施設
- 高速道路サービスエリア等の休憩所

# 市町村の木材利用方針の策定状況

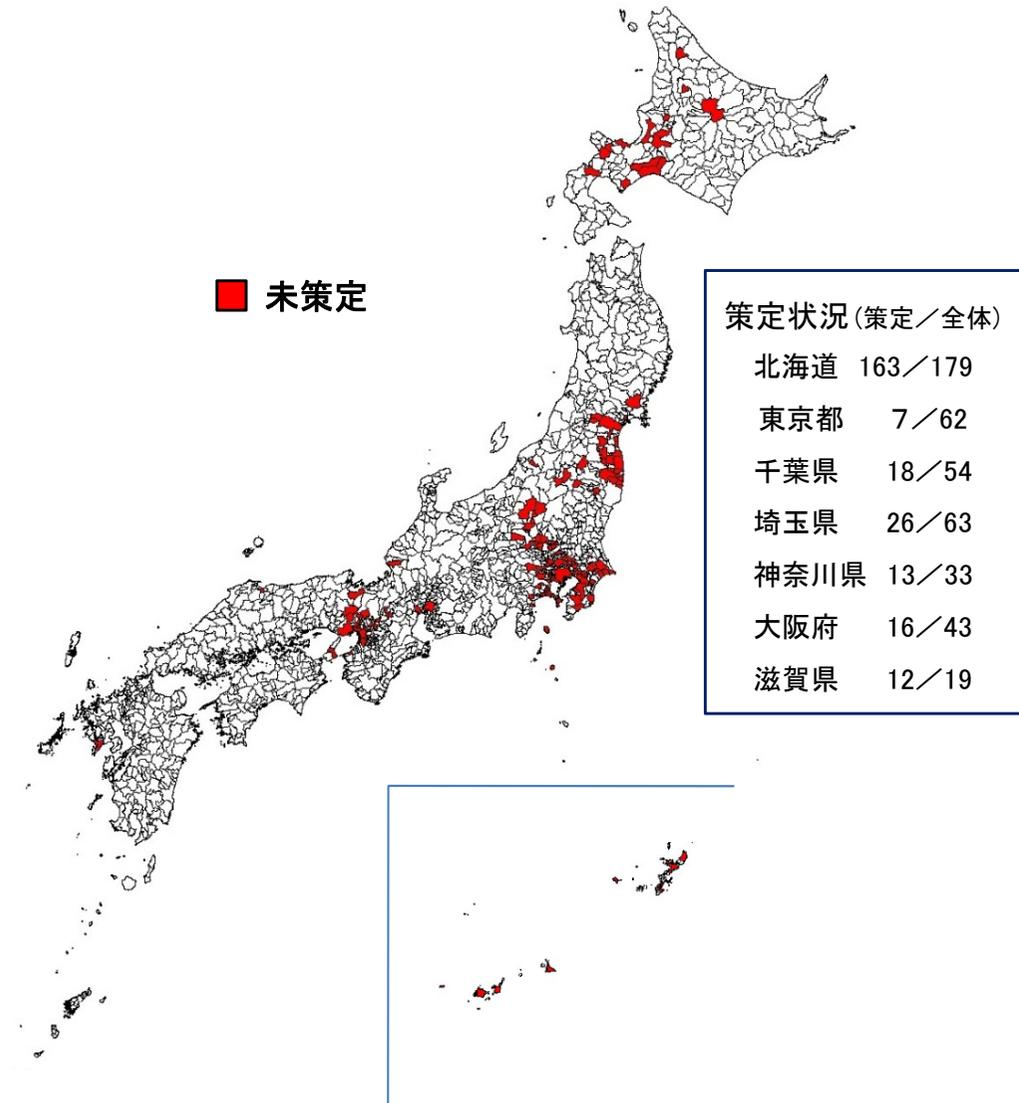
## 方針を策定した市町村の増加状況



全ての都道府県  
で方針策定終了

## 市町村方針策定状況マップ

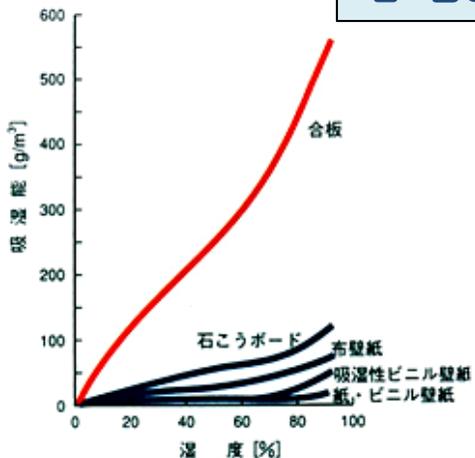
策定済は1,437市町村(平成26年9月30日現在)  
(全国1,742市町村の82%)



# 木の良さ等の普及

## ①木材の良さ

### 心地よい湿度



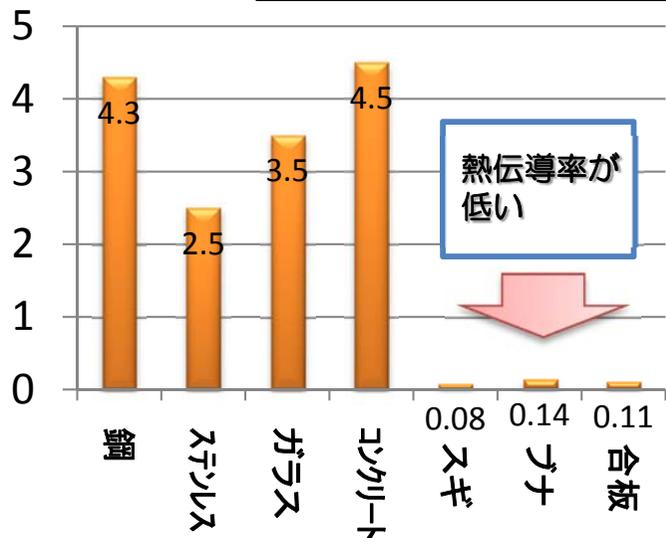
他の材に比べ、湿気を吸ったり吐いたりする「調湿作用」が大きい。

### 心地よい香り



リフレッシュ効果や鎮静効果のほか、抗菌作用、殺ダニ作用、消臭作用あり。

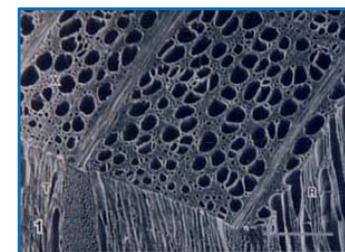
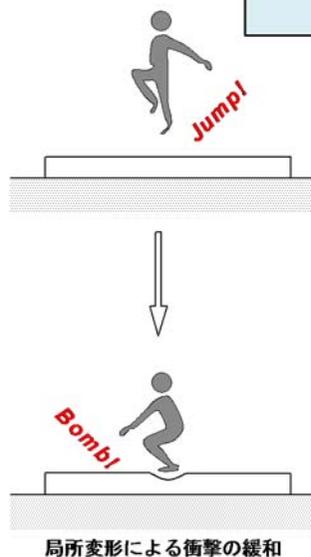
### あったかい！



熱伝導率が低い

木板と金属板に触れると、木板のほうが金属板より温かく感じられる。

### やわらかい！



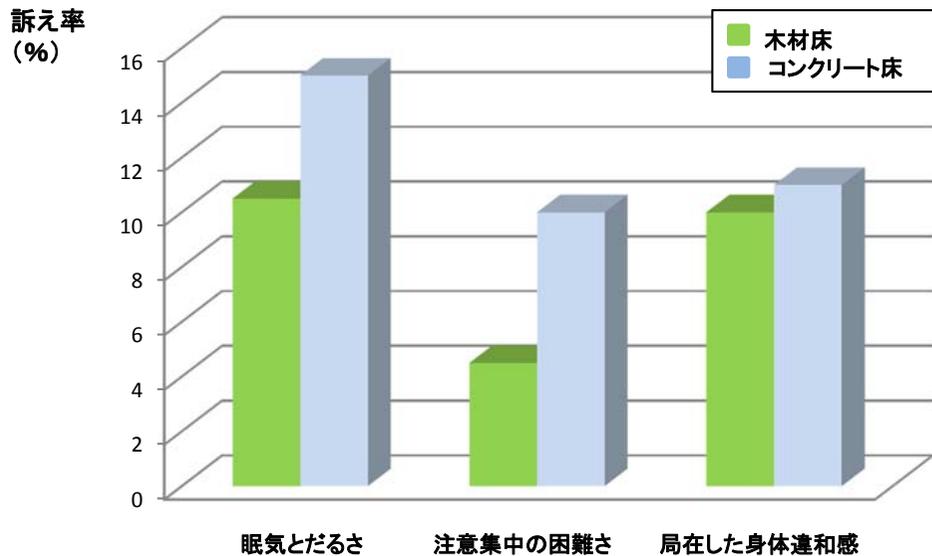
細い管がびっしり並んでいる構造。これがクッションのような役割。

国産材は、これに加え、地元豊富にある資源であり、気候風土にあったもの

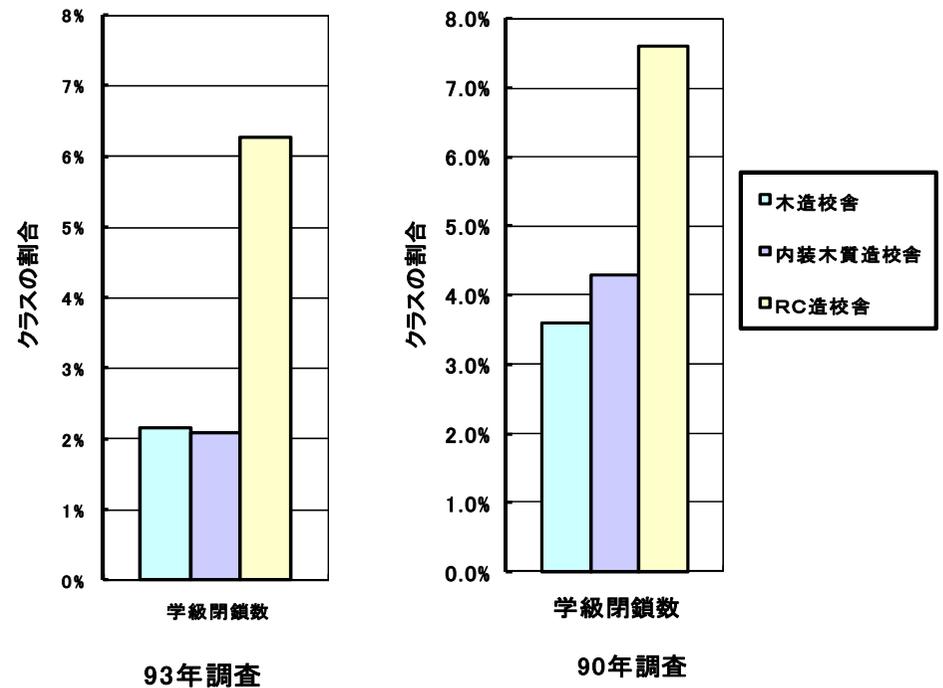
## ②木材利用による具体的効果

- 木材床よりコンクリート床で過ごした場合の方が、足下の冷えにより「眠気とだるさ」、「注意集中の困難さ」を訴える場合が多い。
- 木造校舎又は内装を木質化した場合、鉄筋コンクリート造校舎に比べ、冬期のインフルエンザによる学級閉鎖率が低く、インフルエンザの蔓延が抑制される傾向。

### 低温環境下における床材質の違いによる 自覚症状の比較



### インフルエンザによる学級閉鎖数



出典：早わかり木の学校（文部科学省）  
（天野敦子：木造校舎の教育環境、住木センター、  
P41：2004）

出典：愛知教育大学 橘田紘洋名誉教授  
「木のまち・木のいえリレーフォーラムイン松本（2010年1月30日  
まつもと文化芸術館）」パネルディスカッションでの発表から

### ③木についての主な誤解

燃えやすい → 燃えにくい、燃えない使い方もできます。

弱い → 材料の特性を考えた使い方が大事です。

高い → 工夫次第で、コストダウンは十分可能です。

環境に悪い → 利用と再生産のバランスが大事です。  
(日本では、木を使うことが森林を元気にしています。)

# 公共建築物等での木材利用の事例①

## 国の施設

横浜植物防疫所つくばほ場



国営アルプスあずみの公園



国営明石海峡公園



## 県の施設

埼玉県: 東部地域振興ふれあい拠点施設



愛知県: 県立芸術大学音楽学部校舎



静岡県: コンベンションぬまづ



# 公共建築物等での木材利用の事例②

## 市町村の施設

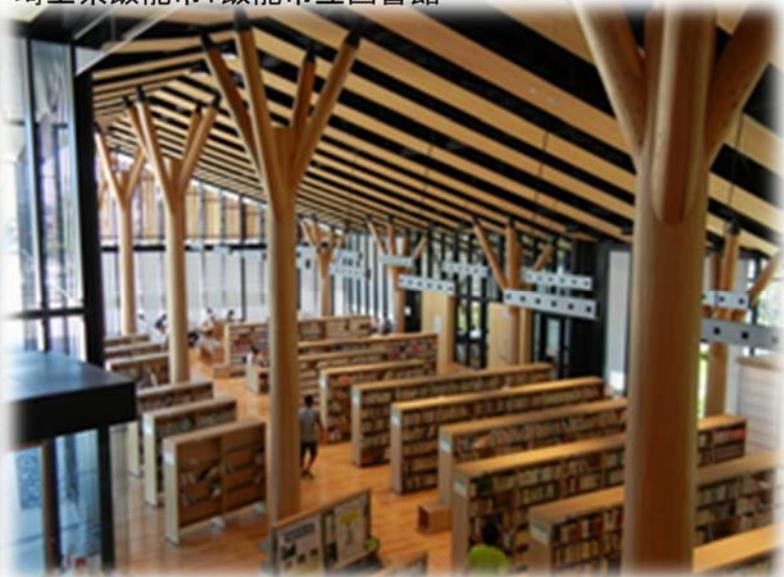
高知県土佐町: 役場庁舎



東京都港区: エコプラザ



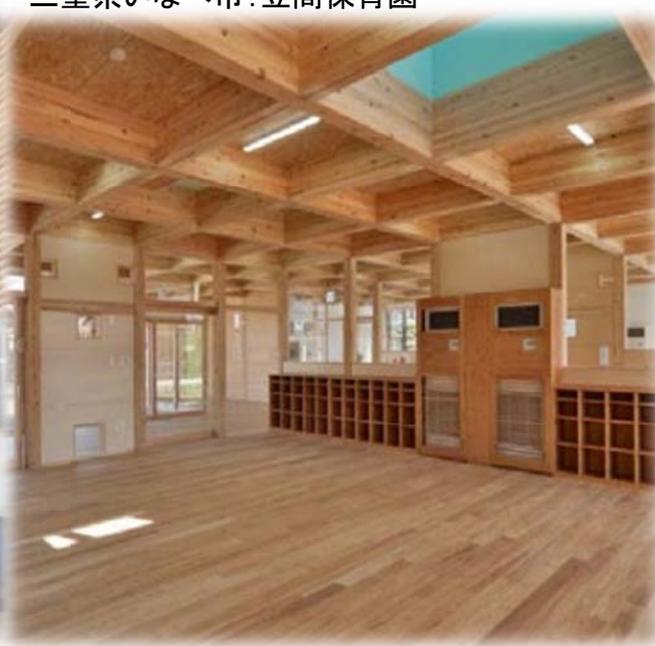
埼玉県飯能市: 飯能市立図書館



静岡県浜松市: 天竜区役所庁舎



三重県いなべ市: 笠間保育園



青森県東通村: 乳幼児センター



# 公共建築物等での木材利用の事例③

## 学校施設

徳島県勝浦町:勝浦中学校



茨城県潮来市:潮来小学校



千葉県成田市:公津の社中学校



高知県中土佐町:久礼中学校



大分県日田市:咸宜小学校



東京都江東区:有明小・中学校



# 観光交流施設等での木材利用の事例

## 空港施設

阿蘇くまもと空港



宮崎空港 保安検査場



## バスターミナル

秋田駅西口バスターミナル



## サービスエリア

別府湾サービスエリア



## 駅舎施設

JR北海道 旭川駅



JR四国 高知駅



## その他

しなの鉄道  
ろくもん  
電車



## 観光発信施設

高知観光情報発信館「とさてらす」



# 事業のご紹介①木造公共建築物に係る補助事業

【森林・林業再生基盤づくり交付金】木造公共建築物等の整備

26年度 国費:22億円の内数 《5億円程度》

〔※27年度概算要求 国費:50億円の内数〕

公共建築物等木材利用促進法に基づく**木材利用方針の策定市町村**において、地域材利用のモデルとなるような公共建築物の木造化、内装木質化に対し支援

## 《対象施設例》

補助対象：

公共建築物の木造化や内装の木質化

補助率： 1/2(設計費、工事費等事業費)

事業実施主体：

地方公共団体、民間事業者等

交付先(お金の流れ):※

まず

国 ⇒ 都道府県

その後、

都道府県⇒事業実施主体

※【森林・林業再生基盤づくり交付金】の場合

国で定めた配分基準で都道府県に配分。

都道府県はさらに事業主体へ配分。

### 【教育・学習施設関係】

- ・文化交流センター
- ・保育園及び子育て支援施設
- ・学校附属施設
- ・体育館
- ・屋内プール
- ・武道場
- ・図書館
- ・児童館
- ・青年の家及び研修所
- ・文化財保存及び展示施設



### 【医療・社会福祉施設】

- ・病院・診療所
- ・高齢者福祉施設
- ・障がい者支援施設



### 【観光・産業振興関係】

- ・観光案内施設
  - ・ターミナル施設
- (物販施設は対象外)



## 公共建築物の木造化・木質化

を支援します



H23年度支援実例：福島県河沼郡会津坂下町立 坂下東幼稚園保育室

平成26年度 林野庁補助事業  
「木造公共建築物の整備に係る  
設計段階からの技術支援」

募集期間： **〔※27年度も概算要求中〕**  
平成26年

**6月18日～7月14日必着**

お問合せ：  
一般社団法人 木を活かす建築推進協議会  
Tel：03-3560-2882

<http://www.kiwoikasu.or.jp>

応募書類はこちらからダウンロードできます

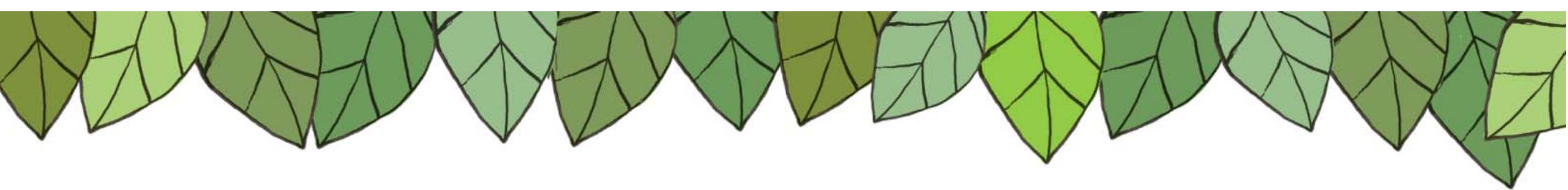
＜このような団体を支援します＞

公共建築物等の木造化、内装木質化を計画している地方公共団体や法人などを対象に、企画構想、発注、木材調達、設計技術などお困りの課題解決に向けたサポートを行います

支援実績：平成23～25年度計 44団体

過去の支援実例は、木を活かす建築推進協議会HPに掲載の報告書をご覧ください

※ 設計費や工事費用など、建築に係る実費を補助する事業ではありません



ご静聴ありがとうございました。

